

復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二ひきの馬が、まどのところでぐうるぐうるどひるねをしていました。

すると、すずしい風がでてきたので、一ぴきが①くしゃめをしてめをさましました。

ところが、あとあしがいつぽんしびれていたの、よろよろとよろけてしまいました。

「おやおや。」

そのあしに力をいれようとしても、さっぱりはいりません。

そこでもだちの馬をゆりおこしました。

「たいへんだ、あとあしをいつぽん、だれかにぬすまれてしまった。」

「だって、ちゃんといてるじゃないか。」

「いやこれはちがう。だれかのあしだ。」

「どうして。」

「ぼくの思うままに歩かないもの。ちよつとこのあしをけとばしてくれ。」

そこで、ともだちの馬は、ひづめでそのあしをぽんとけとばしました。

「やっぱりこれはぼくのじゃない、いたくないもの。ぼくのあしならいたはずだ。よ

し、はやく、ぬすまれたあしをみつめてこよう。」

そこで、その馬はよろよろと歩いてゆきました。

「やア、いすがある。いすがぼくのあしをぬすんだのかもしれない。よし、けとばしてや

ろう、ぼくのあしならいたはずだ。」

馬はかたあしで、いすのあしをけとばしました。

いすは、いたいとも、なんともいわないで、こわれてしまいました。

馬は、テーブルのあしや、ベッドのあしを、ぼんぼんけつてまわりました。けれど、ど

れもいたいといわなくて、こわれてしまいました。

いくらさがしてもぬすまれたあしはありません。

「ひよつとしたら、あいつがとつたのかもしれない。」

と馬は思いました。

そこで、馬はともだちの馬のところへかえつてきました。そして、すきをみて、ともだちのあとあしをぽんとけとばしました。

するとともだちは、

「いたいッ。」

とさけんでとびあがりました。

「そオらみる、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」

「この②とんまめが。」

ともだちの馬は力いっぱいけかえました。

しびれがもうなおっていたので、その馬も、

「いたいッ。」

と、とびあがりました。

そして、やっこのことで、じぶんのあしはぬすまれたのではなく、しびれていたのだとわかりました。

*①くしゃめ…くしゃみ

*②とんま…まぬけなこと

(新見南吉「あし」より)

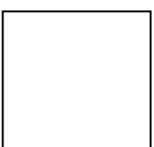
(1) 「そのあし」とは、何をさしていますか。次の1から4までの中から一つ選び、その番号を書きましょう。**レベル4・5**

- 1 いすのあし
- 2 ひきの馬のあし
- 3 ぼくのあし
- 4 ベッドのあし



(2) ともだちの馬に自分のあしをけられて、どんなことがわかったのですか。次の1から3までの中から一つ選び、その番号を書きましょう。**レベル4・5**

- 1 自分の足はぬすまれたのではなく、しびれていたのだということ。
- 2 自分のあしをぬすんだのは、ともだちだったということ。
- 3 自分のあしはぬすまれたのではなく、いすのあしと入れかわっていたということ。



埼玉県立学習支援センター

